

「第 3 回 海部川砂利利用促進協議会」議事概要

■日時：平成 29 年 10 月 28 日（土） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

■場所：海陽町役場 3 階大会議室

■出席者：

（委員）

長田委員長	阿南工業高等専門学校准教授
見吉委員	海部川砂利採取組合理事長
丸本委員	とくしまブランド戦略会議委員
原 委員	かいふ農業協働組合女性部役員
天野委員	海陽町商工会女性部部長
長谷委員	大里地域住民部落長
田中委員	日和佐ウミガメ博物館カレッタ学芸員

（事務局）

徳島県南部総合県民局、海陽町

■次第：

1. 開会 海陽町長 挨拶
2. 議事
 - （1）各ゾーンの取り組みと効果の検証
 - （2）砂利採取管理計画
 - （3）その他
 - ①防災教育の取り組み
 - ②排水ポンプ車の配備
3. 閉会 南部総合県民局長

■配布資料：

- （1）議事次第
- （2）委員名簿
- （3）配席図
- （4）説明資料
- （5）大里松原の砂の蓄積状況

■議事：

1. 開会

海陽町前田町長より挨拶

2. 議事

「各ゾーンの取り組みと効果の検証」、「砂利採取管理計画」等について、説明資料にもとづき事務局から説明。

<意見交換概要>

【B委員】

説明の中で、砂利採取業者に事業を任せる費用対効果の話がでていました。その中で、1億円くらいの予算削減ができるだろうというような説明もありました。

今回のゾーンの変更によって、A、Bゾーンでも、砂利採取業者に任せるという話ですが、現在県から補助金を頂いています。それによって、企業の方も大変助かっているわけですが、この継続について、A、Bゾーンの場合も継続して頂けるかどうか、県としてはどういうお考えなのかをお聞きしたいです。

もう一つは、現在採取が行われてる場所につきましては、今年度は大きな出水がなく、現状としては非常に分かりづらいような現状になっています。しかし、大きな水が流れれば、低いところの採取跡に向いて高い所の堆積砂利が流れ込んで、景観や環境も良くなり、効果があるのが目に見えてくると思います。

【C委員】

Bゾーンについてですが、去年見に行くと、掘削すると同時に砂利が無くなっていくというような状況でした。

掘削量を4,800m³ではなく、10,000とか20,000 m³とか採取して、誰でも持って行けるような環境をつくってくれたら、良いのではないかと思います。ただ、去年、置いていた場所よりも下手側の土手に、竹が生えているのですが、そこに置いた方が持っていきやすいと思います。

それともう一つは、去年、ダンプで運んでいたんですが、坂路が上流に向かっていているので193号線を上流に向かって上がらないといけません。わざわざUターンして吉野橋を渡っておりていくのを、河原を通して運搬したら3~4倍も運べるのじゃないかと感じました。

【D委員】

県が計画されている取り組みで、このままでいいと思います。

【E委員】

砂利の用途についてですが、取りやすい場所に置いてくれたら、もっと各自使う用途もで

てくるのではないかと思います。

【F 委員】

大里の松林を守っているので、松原の砂をもっと沖に出してくれんかなと思います。砂で堤防が埋まってしまって、堤防の役割を果たしていない、それをどうにかしてくれないかなって思います。

Bゾーンで砂利を取っているんですけども、その下に、土地改良区の用水のサイフォンが通っています。これが昔出てきた時に 2m 下げたんです。そこで砂利を採取して、これが浮き上がってきて、やり直さなアカんのとちがうのかなって心配している人もいます。砂利を取るのを反対する意見も出てました。私自身は、取らないと危険だと思うので、取るのは賛成です。

河口も、砂利があっち行ったりこっち行ったり移動しています。去年これが理由で、木ノ元で、砂を沖に出してもらったと思うんですけど、現状、少し戻ってるぐらいで、あんまり変わっていません。

川側の方にいっぱい砂利がいつとるような感じがして仕方ありません。それで、河口がすぐ閉まってしまって、ユンボで掘っています。ただ、どこかに持って行くとかじゃなくて、近くに山のように積むだけだから、すぐに元に戻ってしまいます。それをどうにかしたら良くなると思います。

【G 委員】

防災や予算削減とかいう話の中で、ウミガメの話をするのは苦しいとは思うんですけども、あくまでウミガメの海岸を守ろうとする視点として、今の状況をお伝えします。

大里松原にウミガメを守る会がありまして、その人達にお話を聞いてきました。

皆さんにこの資料、昨日急遽作ったんで見て頂けたらと思います。今年のウミガメの産卵上陸状況は、実質産卵が 0 だったそうなんです。大分苦しいというようにお話をしておりました。上陸が 9 ありますのでカメ自体は 4～5 匹はいたのだと思うんですが、そのわりに産卵が 0 という事で、海岸は産卵できる状況にないようです。

急遽、一昨日海岸を掘ってきたんですけども、掘れる場所はこの海岸の中心部に集中している状態です。そこぐらいしか実質上、今、産卵出来る場所がないという状態です。これはどういう事かということ、砂浜の奥行きはあるんですけども、細かい砂が埋まっていないようで、ここら辺の事を、ウミガメを守る会の人達は嘆いております。

ここ 4～5 年、特に悪いというような事を言っています。これに関しては海岸が、砂が、環境が悪化してるっていう事が挙げられるんですけども、これが、本事業と関係があるかっていうと可能性は否定できない、現状としては、分からない所だと思います。

川の流れが良くなる事によって、沖に細かい砂が流れていけば、ある程度堆積していくのではないかと考えています。今後の状況次第で気をつけないといけないと思います。

そういう面で、県のモニタリングでは、奥行き・形状等だけでなく、砂の粒径と堆積の深さっていうものを、産卵時期の5～8月までの間のどこかで見た方が、ウミガメをこの事業の中で見ていくのであれば必要だと思います。

あとは、今後計画の中でAゾーンから砂を持って行くというような話をしていましたが、Aゾーンの砂利の掘削状況が分からないんですけども、あまり取りすぎてしまうとやはり海岸がやせる原因になりかねないので、慎重にやるべきかと思います。

【F委員】

昔、米軍が撮った松原の海岸の写真と、ドローンを飛ばして現在の写真を比較してみたが、海岸はそんなに変わっていません。ただし、木ノ元の方は逆に松林が増えています。

【A委員】

ありがとうございます。そしたら、今頂いた委員の皆様からのご質問、ご意見に対して、コメントがありましたらお願いいたします。

【事務局】

先ほど、Aゾーンの砂利採取の事についてのご質問がありました。

この事業は、もともと海部川の異常堆積した砂利をなんとかしなければいけないという事から始まっています。この委員会の中でAゾーン、Bゾーン、Cゾーンの3つ分けて取り組んでいきたいと思います。Aゾーンについては公共事業として取り組むところ、Bゾーンについては官民協働事業として取り組むところ、Cゾーンについては砂利採取業者の方に代行事業としてお願いするところというようにです。その代行事業、非常に取りにくい場所にあるという事で、県の方から1㎡あたり300円を補助させて頂いているというところからスタートしています。

先ほど、事務局の方からも、報告させて頂いたようにAゾーン、Bゾーン、Cゾーン、それぞれの取り組みの方針というのは基本的に変わっていません。

ただ、Aゾーン、Bゾーンでも公共事業あるいは官民協働だけでは、なかなかスピードが上がらないという事で、砂利採取の希望があれば、これまでは許可していなかったんですが、それについて許可をしていこうという方針に変えて、砂利の採取、堆積砂利の撤去を加速させていくという事です。あくまで、県としてはCゾーンを優先的に取って頂きたいという事には変わりません。Aゾーン、Bゾーンについては、さらにオプション的なところになるというように考えています。

補助金の有無については、今後砂利の採取場所も近場になるという事もありますので、そういうところを見ながら、あくまでも県がして頂くという所について、赤字になるようでは困るので、その辺を見極めながら考えていきたいと思っています。ご理解を頂けたらと思います。

Bゾーンの仮置き場については、取りやすい場所にして欲しいという意見がありましたので、再度海陽町の方とお話させて頂いて、検討していきたいと思います。それと去年は、採取場所から仮置き場までかなり迂回して運んでいたというご意見も頂きました。今年度は、運搬道路を、よりショートカットして効率よく運べるかどうか、その辺りについて、早速検討させて頂きたいと思います。

それと、大里海岸について色々ご意見を頂きましたけど、現在、大里海岸については月1回横断測量をしながら、形状の変化をモニタリングしています。そういった事も踏まえて、今後検討させて頂きたいと思います。

それとウミガメについては、学術的ないろんなご意見を頂いています。これについてはこの場で、こうします、ああしますといった即答はできませんので、貴重なご意見を承るという事でお願いしたいと思います。

【A委員】

ありがとうございます。そしたら本日欠席されている委員の中で、2名の方からご意見を頂いていますので、読み上げたいと思います。

まず、H委員から四点の意見があります。

一点目が、砂利の活用について、最近ホームセンター等で、防犯用の砂利をよくみかけます。県や町が直営で防犯用砂利の製作販売をできないでしょうか。あるいは、防犯用砂利メーカーに提供できないでしょうか。

二点目が、砂利の活用を増やすために、現在町内に限っている募集を町外へ広げる検討も必要だと思います。

三点目が、造成用に砂利を利用したくても、個人でのハードルが高いので、造成工事を請け負う建設会社に対して、海部川の砂利が利用できる事を広報してはどうでしょうか。

四点目最後です。海部川の砂利を安定管理するためには発生源の抑制が必要だと思います。農林部局との連携を強め、委員会やワーキンググループを立ち上げてはいかがでしょうか。また、ボランティアの力を借りる事も重要だと思います。

もう一方、I委員から三点の意見があります。

一点目、私の周りでは砂利の配布を知らない人が多いので、継続的に色々な方法で周知する事が重要だと思います。

二点目、砂利が欲しくても取りに行けない人が多いので、そういった人に対する手当も必要だと思います。

三点目最後です。イベント等で協力する事があれば協力します。

【事務局】

まずH委員のご意見ですが、町内に限っているのを町外に広げるという検討も必要ではないかというご意見がありました。今年度は、海陽町に限定して実施しようと考えておりま

すが、例えば、今年度の募集状況を見て、昨年度より極端に減っている、海陽町にはもう十分行き渡った、飽和状態である。そういう事になれば、将来的には隣の牟岐町や美波町に広げる、そうなるかも分かりません。そうなったときは、今年度の条件を見ながら、海陽町とも相談しながら検討させて頂けたらと思います。

それと発生源の抑制が必要という非常に貴重なご意見を頂いたと思います。いくらとっても上からどんどん流れ込んできたら、結局イタチごっこになりますので、そこは非常に重要なポイントかなと思います。

この海部川を、土砂の発生源から河口まで総合的に管理すると、こういったときに計画が必要ですが、他県でも、こういった総合土砂管理計画を策定している事例があります。しかし、時間・費用等もかかるので、今後の課題という事で、対応させて頂けたらと思います。

I 委員からは、砂利の配布を知らない人が多いというようなご意見を頂いたと思います。広報が十分でなかった面があるのであれば、再度広報の仕方について、海陽町と相談しながら、多くの人に周知して、多くの人が利用できるように努めたいと考えています。

【A委員】

私の方からですが、頂いたご意見の中で、気になった事としては、お二方からご意見が出たように、取りやすい状況というのは当然必要かと思います。

I 委員の方からも、欲しくても取りに行けない人がいるっていう意見も、これもやはり地元の方の意見ですので、しっかりと汲み取っていかないといけないと感じました。

あと、海岸の事、海岸の砂の巡回というか、本来、海部川から出てきたものが、一度海深くに下がって、巡回してくるという、その巡回のシステムが崩れかけているという印象がありました。大きめの砂利が悪さをして、本当に欲しい砂がない、その辺は、深く考えないと分からない事なので、県の方と協力してしっかりと調べていきたいと思います。

もう一点、F 委員の方からサイフォンを 2m 下げたという話がありましたが、吉野橋の上流は、堤防というか、断面が、器が比較的大きくて、洪水を流す能力はあるのですが、片側の河床がどんどん上がってきていて、もう一方が低下してきています。全国の川でこういった状況が起こっていて、この二極化、放置しておくと構造物、サイフォンとか、もう少し進行すると、結局堤防がやられたりします。これを放置するのは、さすがにまずいだろうという事で、県の方には、砂利をせっかく取るのだったら、二極化対策を絡めながら、治水の安全度を高められる掘削の仕方を、しっかりと考えたほうが良いと言いました。

そうすると、無駄がなくなってくると思います。先ほどの河口砂州もそうですが、何がネックになっているかを川全体でしっかりと考えて、無駄のない採取していくという事が必要だと思います。一般の住民の方から、しっかりとそういったご意見をもっているというのは、非常にありがたいと思います。

もう一点、この川の状況について、先ほどのサイフォンのところで、私が夏に初めて見たときに、子供がここで飛び込んで遊んでいる姿を目にして、「あー、川に親しんでいるんだ

な」っていう思いとともに、非常に危ないところで遊ばしているのやなっていう感想を持ちました。それで、何でもかというのを考えると、植生が多くて対岸から入れないんですね。それと河岸が高く、川に近づくのに4 m位の斜面を下りていけないといけません。そういった川じゃなくて、やっぱりこう船底型というのか、非常に河原に近づきやすい川というのを目指した方が、海部川の事をもっと知って頂けると、子供の世代からもっと知って頂けます。県外からも川に遊びに来てくれるのではないかと思います。そういう思いがあって、今回せっかく、砂利を採取するのだから、やっぱり近づきやすい川を目指すのが、この海部川の発展にとって良いと思います。

【C委員】

川をまっすぐ流したら、水の勢いでバランスよく砂利が下流に流れるのかなと思ったりするけど、これに対してなんか問題あるのですか？

【事務局】

川の流れが真っ直ぐになれば、もちろん流速が速くなるんですけども、それによって、異常な洗掘を起こしたりとかですね、箇所によっては洗掘が大きくなったりします。

少し前、多自然護岸という工法がございまして、わざと川を蛇行させて、自然に優しい川づくりをしたという経緯もあります。そういった中で、今後河川整備計画でそのあたりを検討している状況ですが、これについては、いろいろな面で考えていきたいと思います。

【B委員】

吉野橋の上流の話ですが、サイフォンをやり直したのは36年くらい前だと思います。やり直してから、吉野橋の上に、洗掘されんようにテトラを入れました。しかし、これが災いになって、右岸側に4m余っての砂利堆積ができました。これによって川の流れを阻害して、だんだん川そのものが左岸側に寄っていったわけです。川が狭まるという事は流速が速くなります。その中で水がテトラを越えるため、水は必ずその障害物の裏をまわるという原理があります。そのため、だんだん下流が洗掘されて、中学生くらいの子供が泳ぐのに非常に泳ぎやすい深さになりました。

右岸に砂利が堆積して、川の流れが左岸側に寄るため、洗掘されて、流速が速くなって、左岸側の堤防がもたないという状況になってきます。

これを、川の真ん中を水が流れるというのが理想やけど、なかなか、そういう様にはいきません。川は、右へ、左へ曲がったりしながら流れます。人工的に真ん中に流すのは、恐らく私は無理やと思います。

だから、今の吉野橋の上を、堆積しているところを低くして、全体的に洪水が流れるような状態をつくらないと、やっぱり右岸側が堆積して、左岸側が洗掘されるような状況になっていくと思います。

【事務局】

今後の砂利採取について、右岸側の堆積砂利を左岸側に押土するというような事も、案として考えられるとは思いますが、先ほどお話があったように、ここは、夏場になったら子供さんがたくさん遊びに来られるところで、天然のプールになっているところです。河床を平らにすれば、プールがなくなってしまう、遊び場がなくなってしまう。治水とは別の話になりますが、そこは、いろいろな方向から確認して、検証して、吉野橋の上流の砂利堆積の対策を考えていければと思います。

【A委員】

私の方から一言いわせて頂くと、川の断面形を、川の中心が深くなるように整備するというのは、これは究極のやり方です。一番安全性が高いという風なやり方になりますが、一方で、いろいろそういった事をやろうとして考えないといけないのは、まずは魚類への影響です。この川は、鮎が非常に有名ですが、蛇行をなくすという事は、要するに棲み処をなくす、瀬淵がなくなるという事になるので、そのあたりで川筋を真ん中にしてしまうのは、都会の川をちょっと思い浮かべて頂けたら、ああいう川になってしまうという事です。

だから、現状のように、堤防に当たる極端な蛇行というのは極力避けていきながら、河原に異常堆積した砂利を採取しながら、生物に配慮していくのが理想だと考えております。

【A委員】

それでは他ございませんか？

意見等ございませんので、事務局の方にマイクをお返しします。よろしくお願いします。

【事務局】

長時間にわたりまして、活発なご議論頂きましてありがとうございました。その他の注意事項、連絡事項等はございますでしょうか？

次回の協議会ですが、本日のご意見を参考とさせて頂き、各ゾーンの事業計画につきまして、更なる検討を行ってまいります。開催時期につきましては、改めて日程調整をさせて頂きたいと考えております。

以上もちまして、第3回海部川砂利利用促進協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

3. 閉会

■協議会の状況写真：

事務局説明



意見交換 1



意見交換 2



意見交換 3

